令和5年度　梅南中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1　「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

(1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

(2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

(3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

(4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2　「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

(1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。

(2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

(3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3　「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

(1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。

(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4　「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

(1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育･健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和5年度　梅南中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

1　全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）			平均無解答率（%）		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3　年	学校	41	66	45	40	3.9	12.4	6.7
	大阪市	―	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	―	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2　中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数（人）	平均点（点）					平均無解答率（%）				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3　年	学校	44	56.6	52.3	47.4	44.0	52.5	10.8	2.8	14.3	11.2	7.5
	大阪市	―	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	―	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2　年	学校	34	66.1	43.5	48.6	32.4	47.2	8.5	5.7	15.0	13.1	14.9
	大阪市	―	66.7	54.6	52.2	40.6	57.2	8.2	3.2	11.2	10.4	8.6
	大阪府	―	66.8	54.2	52.2	40.2	57.1	8.3	3.5	12.0	11.3	8.9
1　年	学校	41	46.9	41.6	45.2	47.3	48.7	15.2	8.4	16.1	2.7	6.8
	大阪市	―	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	9.1	1.9	4.3
	大阪府	―	60.8	―	54.7	―	64.1	9.6	―	10.3	―	4.9

※　1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
※　1年生の理科は化学的領域を選択
※　2年生の社会はA問題を選択　2年生の理科はA問題を選択
※　3年生の理科はC問題を選択

3　大阪市英語力調査（GTEC）

学年 実施月日		生徒数（人）	読むこと【リーディング】（スコア）	聞くこと【リスニング】（スコア）	書くこと【ライティング】（スコア）	話すこと【スピーキング】（スコア）
3　年	学校	42	89.0	94.7	102.7	100.6
	大阪市	―	101.3	107.7	137.9	102.2

4　全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数（人）	握力（kg）	上体起こし（数）	長座体前屈（cm）	反復横とび（点）	20mシャトルラン（回）	持久走 男子1500m 女子1000m（秒）	50m走（秒）	立ち幅とび（cm）	ハンドボール投げ（m）	体力合計点（点）
	44										
2　年 男　子	学校	29.94	29.94	45.31	56.44	72.94	-----	7.69	204.56	22.44	46.06
	大阪市	28.62	26.21	42.04	51.65	79.05	417.51	8.05	194.78	19.88	40.79
	全　国	29.02	25.82	44.16	51.22	78.07	409.02	8.01	197.02	20.40	41.32
2　年 女　子	学校	21.36	19.91	47.64	44.20	45.14	-----	9.59	161.23	11.68	44.11
	大阪市	23.11	22.12	44.78	46.25	52.11	313.19	9.03	165.29	12.10	46.99
	全　国	23.15	21.62	46.27	45.65	50.70	306.26	8.95	166.34	12.43	47.22

令和5年度　梅南中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】
＜国語＞
「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均を上回ることができた。しかし、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均を下回る結果となった。無解答率は全国平均の4．6％に対して、3．9％という結果であり、意欲的に調査に臨む姿勢を見ることができた。

＜数学＞
「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のどの領域に関しても全国平均を下回る結果となった。ただ、個別の問題で見ると箱ひげ図の箱に着目して理由を説明する問題に関しては、全国平均を4.5ポイント、大阪府の平均を9.9ポイント上回る結果となった。

＜英語＞
「聞くこと」と「読むこと」について、大阪府の平均正答率より約6％下回った。また、「書くこと」については大阪府の平均正答率より約4％下回った。ただし、正答数が15問以上の割合は、大阪府8．4％、全国7．3％に対して、9．5％で上回ることができた。

【今後に向けて】
＜国語＞
複数の情報を比較したり、関連づけたりして検討し、課題に取り組むことで、「情報の扱い方に関する事項」についての力の定着をはかっていく。また毎授業の課題や朝学習でのプリント学習を通して、語彙力の定着をはかっていく。さらに、古文の応用問題を数多く取り組んでいくことで、古典に前向きに取り組む姿勢を育てていく。

＜数学＞
4つの領域すべてにおいて、基礎的な力を向上させる必要がある。日々、小テストなどを通して基礎的な力を定着させ、あわせて発展的な問題にも取り組み、応用力も身につけていく。

＜英語＞
4技能すべてにおいて基礎の定着が必要である。そのためには単語力の向上が必要である。単語小テストを通して、単語力の向上に努める。また、演習問題を通して応用力の向上にも引き続き取り組む。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果と課題】
＜国語＞
漢字の書き問題や読み取り問題、また古文の問題では、正解率が大阪府平均を上回るものもあり、日々の取り組みの成果を発揮できた。一方手紙の書き方については大阪府平均を大きく下回る結果となった。また33問中11問は全員が解答しており、意欲的にテストに臨む姿勢を見ることができた。

〈社会〉
大阪府平均と比較して、思考判断表現に関しては平均を上回ったものの、それ以上に知識の分野では平均を下回る結果となった。また問題別に見たときに、平均値を大きく上回るものがあったものの、一定の語句を問う問題で平均を大きく下回るものがあった。単純な知識の定着において課題が見られた結果となった。

〈数学〉
平均点は大阪府と比較して、4.8ポイント下回る結果となった。大きく点差が開いた設問は無かったがほとんどの設問で府平均を下回っている。ただ、データの活用の領域の設問ではほとんど府平均を上回っている結果となった。また、無回答率は府平均を3.1ポイント上回っている。

〈理科〉
得点率は大阪府平均と比較すると、知識技能はマイナス3.5ポイント、思考判断表現はマイナス4.0ポイントという結果となった。領域別にみると生命の分野のみわずかに府平均を上回っているが、その他の領域では下回る結果となった。

〈英語〉
「読むこと」の領域において大阪府平均を上回ることができた。ただし、問題形式別平均点の記述式において大阪府平均を下回る結果であった。

【今後に向けて】

〈国語〉
3年生は残り3か月ほどしか中学校生活が残っていないので、その中で、各自の進路実現に向けて、不得意分野の克服をめざし、個々に応じた学習目標を立てて、取り組ませていく。また、古典、文法、読解問題など、習熟度に応じた難易度の異なる問題のうち、個々に合った問題に取り組ませて、学力の定着を図っていく。

〈社会〉
残りの期間においては「知識の定着」を主な課題として扱っていく。社会科においては覚えていなければ正答することが不可能な問題もあることが事実であるため、全体の知識の定着を図っていきたい。

〈数学〉
ほとんどの設問で全体的に府平均を下回っていることから、まずは各領域の基礎を定着させる必要がある。また、無回答率が府平均を上回っていることから、粘り強く考えることを意識させる必要がある。

〈理科〉
知識を問う問題の正答率が比較的高いものの、領域によってはまだまだ定着していない生徒も多くみられるので、まず全体的に知識の定着を図っていく。また、短答や記述の正答率を上げるため、発展的な問題演習も個々に応じて取り組んでいく。

〈英語〉
単語テストや文法の基礎の復習に取り組みながら、発展的な文章問題にも取り組んでいく。また、記述式のライティングが苦手な生徒が多いため、ライティングの練習問題を増やしていきたい。

〇大阪市英語力調査（GTEC）

【成果と課題】

リーディング分野では、短い簡単な文章をいくつかの「意味のまとまり」ごとに区切りながら英文を読み進める力はついている。リスニング分野では、なじみのある表現から必要な情報を聞き取る力はある程度ついている。ライティング分野では、1つのテーマで3文程度書く力はついてきている。スピーキング分野では、基本的な語や言い回しを使って、日常のやりとりにおいて単純に応答する力はついてきている。

【今後に向けて】

4技能の向上ができるような教材等を作成していく。また、GTECの問題形式や問題の難易度に合わせた問題演習を授業内でも取り組んでいく。

令和5年度　梅南中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

〇中学生チャレンジテスト

【成果と課題】

＜国語＞
1年生については小学校時の結果より2ポイント下回る結果となったが、書くこと（案内文を書くのみ）に関しては大阪府の平均正答率よりも1．3ポイント上回り無回答率は0であった。また、読むこと（登場人物の描写のみ）に関しては、7．8ポイント上回った。2年生については1年次の結果より1．9ポイント上回り、全体的に読むことの項目が大阪府の平均正答率より2．3ポイント上回った。また知識・技能に関しても2．5ポイント上回った。3年生については、2年次よりも0．7ポイント下回ったが、知識・技能（文脈に即して漢字をただしく読む）については平均して約6ポイント上回った。また、書くこと（読み手の立場にたって考える項目のみ）についても6．4ポイント上回った。

〈社会〉
3年生は、2年次に数値を落としたものの、3年次には2年次を上回る結果を残すことができた。（小学生と1年生は対市比であるため厳密には指標とする数値が異なる）3年間の取組の成果が一定形となり、集団に合った教育が展開できたように思う。しかし、2年生については指標が異なるとはいえ、1年次の結果を大きく下回ることになり、現在の集団に合った授業展開かどうかの疑問が残る結果となった。また、1年生については小学生時の結果を上回ったものの、対市比74.2と非常に低い数値となっていることからも、授業の抜本的な改革を行うことが必要であると考えられる。

〈数学〉
3年生、2年生は目標値を少し下回る結果となった。
1年生については小学生時の結果を上回ったものの、対市比82.6と低い数値となっている。
全学年に共通して、まずは基礎をしっかり定着させる必要がある。また、すべての記述式の問題で得点率が低く、その問題の無回答率が高い傾向にある。その他の問題については得点率が大阪府を上回るものも見受けられる。

〈理科〉
3年生は2年次に数値を落としたが、3年次には1年次とほぼ同じ数値にまで上昇した。基礎的な知識の定着を目的に授業を展開した形を継続した結果が出たのではないかと考えられる。
2年生はノートに写す時間を削減し、説明を聞いて理解する時間を増やす目的で、授業プリントを中心にした授業を行ったが、逆に書いて覚える機会を無くしてしまった結果になってしまった。
1年生は過去の授業の振り返りや問題演習を行うなど対策をしたが、数値は減少した。授業を1分野2分野同時並行で行っており、授業間が開いてしまうため定着がしづらかったのではないかと考えられる。

〈英語〉
3年生は、2年次に数値を落としたものの、3年次には2年次を上回る結果を残すことができた。（小学生と1年生は対し市比であるため厳密には指標とする数値が異なる）3年間の取り組みの成果が一定形となり集団にあった教育が展開できたように思う。しかし、2年次には1年次の結果を下回ることとなり、現在の集団にあった授業展開かどうかの疑問が残る結果となった。1年生についても小学生時の結果を下回る結果となっており授業の改革を行う必要があると考えられる。

調査結果から

【今後に向けて】

〈国語〉
全学年とも書くことについての平均が下回っているため、今後は作文指導や、記述問題対策の時間を増やすことが必要不可欠である。また無回答率も大阪府の平均に比べると高く、問題に諦めずに向かう姿勢もつけていかなければならない。単元テストや、漢字テストも継続的に実施し、習熟度に分けて授業を展開するなどして学力向上させていきたい。

〈社会〉
1年生、2年生については授業の抜本的な改革が必要であると考える。両学年とも、知識面、思考面の両方に課題が見られ、内容の定着ができていない。基本的な知識の定着をまず目指し、それから思考面の強化を行う必要がある。各単元ごとの語句確認や、単元テスト、それらに向けた学習時間の導入など、時間をかけた対策を行っていく必要があると考える。

〈数学〉
普段の学習活動が単に知識・技能の習得にならないようにする必要がある。知識・技能を活用する問題などに触れる機会も増やし、数学的な表現を用いて論理的に考察したり、その過程を振り返って考えを深めたりすることが求められる。

〈理科〉
2年生は書く機会の増加の目標とし、ノートを書いて覚える、何度も問題を解くというようなことも取り入れていきたい。
1年生は知識の定着をしっかりとするため、授業間にも課題を出すなど、授業以外での教科に関わる機会を増やしていきたい。

〈英語〉
1年生、2年生については授業の改革が必要であると考える。1年生においては知識面、思考面の両方に課題が見られ、内容の定着ができていない。基本的な知識の定着をまず目指し、それから思考面の強化を行う必要がある。2年生においては知識に偏りがあり、定期テストにおいての点数の落差が大きい。両学年とも各単元ごとの語句確認、単語テスト、単元テストに対する十分な時間の確保が必要であると考える。